

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：33109

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23660026

研究課題名(和文)外国人看護師候補者の看護師資格取得・教育に関わる大学の教育支援システム構築

研究課題名(英文)Construction of education support system for taking the national nursing licence and the education concerned among foreign nursing candidates.

研究代表者

中村 悦子(Nakamura, Etsuko)

新潟青陵大学・看護福祉心理学部・教授

研究者番号：60367422

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：「外国人看護師候補者の看護師資格取得・教育に関わる大学の教育支援システム構築」に向け実施した。実施対象は3医療施設(新潟・長野・東京)で5人のEPA看護師。支援の大学教員は、3大学(新潟青陵大学・佐久大学・了徳寺大学)4人である。支援内容は、1)「系統別看護師国家試験問題」をオンラインで学習支援、2) Skypeによる、面接指導、3)目標を設定し、訪問指導、であった。結果、国家試験合格者は5人のうち1人であった。結論、国家試験合格には、日本語能力、異文化適応能力を必須とし、そのレディネスとモチベーションを整えることが重要な課題である。

研究成果の概要(英文)：We conducted the study on the construction of education support system for taking the national nursing license and the education concerned among foreign nursing candidates (FNC). Five FNCs of three medical facilities and four teaching staffs (Niigata Seiryō University, Saku University, and Ryo tokuji University) were participated in this study. Our education support included three points: 1) study support about the systematic national nursing license test question by using the e-learning system, 2) receiving a teacher's guidance by using Skype, 3) after setting up their own objective, making a call at student's medical facility. Finally, one of 5 FNCs passed in the national nursing license. We concluded that in order to passing in the national nursing license, Japanese and different culture adjustment faculties were required, and also readiness and continuity of motivation to do the work and/or mission were quite important subjects.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：外国人看護師候補者 学習支援 異文化 日本での生活 支援看護師 看護管理者 看護師国家資格

### 1. 研究開始当初の背景

2008年、東南アジアとのFTA(自由貿易協定)・EPA(経済連携協定)交渉をきっかけに外国人看護師候補者の受け入れが開始された。2008年8月にインドネシアより第一陣が104人来日し、2009年5月にはフィリピンから第一陣93人が来日した。受け入れ医療施設数は、2008年度は47施設、2009年度は83施設であった。外国人看護師候補者の来日目的は、日本で看護師として就労することである。しかし、日本で就労するためには、看護師国家資格が必要である。来日している外国人看護師候補者は3年間の内に資格を取得できなければ、帰国を余儀なくされる。外国人看護師候補者の看護師国家試験合格に向けた自助努力はもろろのこと、受け入れ医療施設は、外国人看護師候補者が看護師国家資格を取得し、日本で就労できるよう支援対策に取り組んでいる。2008年度、2009年度の2回の国家試験合格者は336人中3人のみであった。看護師国家資格取得の困難さが浮き彫りになった。

先行研究では、受け入れの実態について量的調査がある。その中で外国人看護師候補者が抱える問題や受け入れ施設の支援にかかる負担について報告している。本研究はこうした結果を受け、「外国人看護師候補者の看護資格取得・教育に関わる大学の教育支援システム構築」にある。

### 2. 研究の目的

本研究独自の教材開発ならびに指導プログラムに基づき、実践したその成果を、外国人看護師候補者の立場、支援に関わった看護師の立場、受け入れた看護管理者の立場から、聞き取り調査をし、現状の問題を明らかにする。支援の要点を検討し、支援システム構築に向けた課題を提言する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 実施概要

外国人看護師候補者支援プログラムを、新潟、東京、長野の3つの地域の医療施設で、以下のような方法で実施した。

e ラーニング(「系統別看護師国家試験問題」)による学習支援を行った。

Skypeを使い、遠隔地からの学習支援と面接指導(メンタルの相談を含む)を行った。

ポートフォリオ(ゴールドシート、目標シート、インパクトシート)を作成しファイルに綴じ、それを用いて、年2~3回訪問指導した。達成度の確認、学習動機に視点をあて面接指導を行った。

#### (2) 研究方法

「外国人看護師候補者の日本での生活体験によるネガティブ、ポジティブ反応」

・目的：外国人看護師候補者が日本で生活体験したネガティブ・ポジティブ反応から支援の要点を明らかにする。

・対象者：外国人看護師候補者5人

・調査期間：2013年3月~4月

・調査方法：半構成的質問によるインタビュー調査(ICコーダー、60分以内)

・調査内容：生活、学習、仕事に関する印象に残った出来事、感じたこと、考えたことなど(ネガティブ、ポジティブ)

・分析方法：KJ法による質的分析。インタビュー内容から意味のある文章を抽出し逐語録を起こしラベルを作成した。ネガティブ、ポジティブ反応に分けた。ラベルの意味、類似性でグループ化し、その内容をまとめ表札とした。更に表札をグループ化しシンボルマークをつけた。ネガティブ反応とは、つらい事、不快感情、マイナスな出来事とし、ポジティブ反応とは、嬉しかった事、快感情、プラスの出来事とした。グループ化の信頼性、妥当性確保のため、第三者の教員による検討を依頼し、共同で確認した。

・倫理的配慮：研究目的と結果の公表を文章と口頭で説明した。また、自由意思で参加できること、拒否による不利益は被らないことなどを説明し同意を得た。

「外国人看護師候補者支援に関わった看護師のネガティブ、ポジティブ反応」

・目的：外国人看護師候補者の支援に関わった看護師のネガティブ・ポジティブ反応から支援の要点を明らかにする。

・対象者：外国人看護師候補者支援に関わった看護師7人

・調査期間：2013年3月~4月

・調査方法：半構成的質問によるインタビュー調査(ICコーダー、60分以内)

・調査内容：外国人看護師候補者支援に関わり、印象に残った出来事、感じたこと、考えたことなど。

・分析方法：と同上

・倫理的配慮：と同上

「外国人看護師候補者支援のあり方に関する看護管理者の問題意識と課題」

・目的：外国人看護師候補者の支援の在り方に関する看護管理者の問題意識と課題をグループインタビューで明らかにする。

・対象者：外国人看護師候補者を受け入れた医療施設の看護管理者5人

・調査期間：2013年5月

・調査方法：半構成的質問によるグループインタビュー調査(ICコーダー、90分以内)

・調査内容：受け入れの現状と問題認識、支援のあり方(支援制度を含む)

・分析方法：テキストマイニング(KHコーダーVer.2.beta31)により計量的に解析し、共起ネットワークと階層性クラスター分析を用い、結びついている特徴語を原文解釈と合わせ質的に分析した。

・倫理的配慮：研究目的と結果の公表を文章と口頭で説明した。また、自由意思で参加できること、拒否による不利益は被らないことなどを説明し同意を得た。

#### 4. 研究成果

(1) 「外国人看護師候補者の日本での生活体験によるネガティブ、ポジティブ反応」

ネガティブな反応は160件であった。シンボルマークは【生活上のストレスと国家試験のプレッシャー】【働き方の違い、日本のナースは多忙】【日本語によるコミュニケーションの困難】【ホームシック】【ナースとしての就労に不安】の5つに分類できた。

【生活上のストレスと国家試験のプレッシャー】は47件で、表札『日本の風土に慣れない』『食習慣の違いに生活のしにくさ』『一日の生活の過ごし方がわからない』『国家試験は大きな壁、ストレスで体調崩した』であった。【働き方の違い、日本のナースは多忙】は44件で、表札は『ナースの働き方、雰囲気の違いに戸惑う』『日本のナースは忙しい』であった。【日本語によるコミュニケーションの困難】は29件で、表札は、『患者、スタッフと日本語によるコミュニケーションがとれず困った』であった。【ホームシック】は24件で、表札は『家族と離れ寂しい、家へ帰りたい』であった。【ナースとしての就労に不安】は16件で、表札は『日本語で正しく看護記録が書けるか不安』『ナースの仕事にブランクがあり、取り戻せるか不安』

表1 外国人看護師候補者のネガティブ反応 (n = 160)

シンボルマーク	表札	ラベル件数
生活上のストレスと国家試験のプレッシャー	日本の風土に慣れない	12
	食習慣の違いに生活のしにくさ	13
	一日の生活の過ごし方がわからない	10
	国家試験は大きな壁、ストレスで体調崩した	12
働き方の違い、日本のナースは多忙	ナースの働き方、雰囲気の違いに戸惑う	40
	日本のナースは忙しい	4
日本語によるコミュニケーションの困難	患者、スタッフと日本語によるコミュニケーションがとれず困った	29
ホームシック	家族と離れ寂しい、家へ帰りたい	24
ナースとしての就労に不安	日本語で正しく看護記録が書けるか不安	13
	ナースの仕事にブランクがあり、取り戻せるか不安	3

であった。日本の風土、習慣にも適応できず、自身のなさ、ストレスを助長し負の連鎖となっていた。

ポジティブ反応は145件であった。シンボルマークは【異文化に関心・受容】【学習意欲と努力】【生活、仕事、環境に満足】【日本語による会話に喜び】の4つに分類できた。【異文化に関心・受容】は50件で、表札は『日本人の礼儀正しさ、ルールをきちんと守るのに感心』『日本のナースとして働きたい』『日本の文化に関心をもち、積極的に関わる』であった。【学習意欲と努力】は46件で、表札は『日本で看護の勉強を続け、将来看護教員になりたい』『職場でのカンファレンスを通してがん看護、疾患、治療について学んだ』『国家試験はeラーニング、過去問を使い、覚えるのにメモやリストを作り工夫した』であった。【生活、仕事、環境に満足】は30件で、表札は『生活も仕事も自立してきた。自信がもてる』『受け入れ病院、看護教員からの学習サポートに感謝している』『日本での給料に満足している』『母国の友人と休日過ごすのが楽しみ』であった。【日本語による会話に喜び】は19件で、表札は『患者と日本語で話せて嬉しい』『日本語での会話、うまくできるようになった』であった。異文化理解、日本語能力の自信が、国家試験の学習意欲にプラスの影響を与えていた。

表2 外国人看護師候補者のポジティブ反応 (n = 145)

シンボルマーク	表札	ラベル件数
異文化に関心・受容	日本人の礼儀正しさ、ルールをきちんと守るのに感心	19
	日本のナースとして働きたい	19
	日本の文化に関心をもち、積極的に関わる	12
学習意欲と努力	日本で看護の勉強を続け、将来看護教員になりたい	8
	職場でのカンファレンスを通してがん看護、疾患、治療について学んだ	11
	国家試験はeラーニング、過去問を使い、覚えるのにメモやリストを作り工夫した	27
生活、仕事、環境に満足	生活も仕事も自立してきた。自信が持てる	19

生活、仕事、環境に満足	受け入れ病院、看護教員からの学習サポートに感謝している	5
	日本での給料に満足している	2
	母国の友人と休日過ごすのが楽しみ	4
日本語による会話に喜び	患者と日本語で話せて嬉しい	8
	日本語での会話、うまくできるようになった	11

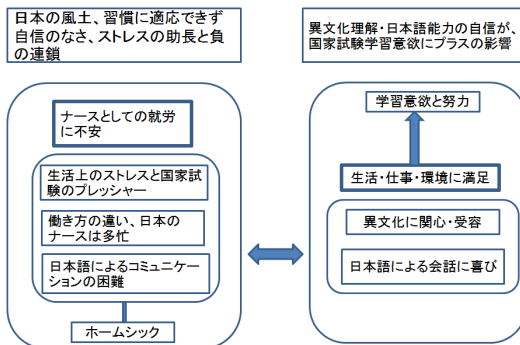


図1 外国人看護師候補者の日本での生活体験、ネガティブ・ポジティブ反応

(2) 「外国人看護師候補者支援に関わった看護師のネガティブ、ポジティブ反応」

ネガティブな反応は144件であった。シンボルマークは【労働環境不適合】【国家試験に向けた学習意欲の低さ】【協働者として不安】【日本での新しい経験ストレス】【外国人特別視によるスタッフの不満】の5つに分類できた。【労働環境不適合】は56件で、表札は『看護に対する基礎知識不足と看護観の違い』『労働意欲の低下と労働環境への不満』『働き方に対する認識の違い』『日本語による患者とのコミュニケーション不十分』『ラマダン時の集中力欠如による安全面でのリスク』であった。【国家試験に向けた学習意欲の低さ】は49件で、表札は『学習意欲が時間の経過とともに低下』『思うように進まない非効果的な学習方法』『学習の成果がみられない』であった。【協働者として不安】は22件で、表札は『国家試験に合格しても協働者として実践力が伴わないことへの不安』であった。【日本での新しい経験ストレス】は14件で、表札は『日本の風土、新しいこと(言葉、気候、言葉、高齢者、習慣、国家試験)へのストレス、プレッシャー』であった。【外国人特別視によるスタッフの不満】は3件で、表札は『外国人看護師候補者との勤務条件に差があり、スタッフに不満』であった。学習意欲の低さ、ストレス、労働環境不適合は相互に負の連鎖となっていた。

表1 外国人看護師候補者支援に関わった看護師のネガティブ反応 (n = 144)

シンボルマーク	表札	ラベル件数
労働環境不適合	看護に対する基礎知識不足と看護観の違い	26
	労働意欲の低下と労働環境への不満	16
	働き方に対する認識の違い	7
	日本語による患者とのコミュニケーション不十分	4
	ラマダン時の集中力欠如による安全面でのリスク	3
国家試験に向けた学習意欲の低さ	学習意欲が時間の経過とともに低下	33
	思うように進まない非効果的な学習方法	9
	学習の成果がみられない	7
協働者として不安	国家試験に合格しても協働者として実践力が伴わないことへの不安	22
日本での新しい経験ストレス	日本の風土、新しいこと(言葉、高齢者、習慣、国家試験)へのストレス、プレッシャー	14
外国人特別視によるスタッフの不満	外国人看護師候補者との勤務条件に差がありスタッフに不満	3

ポジティブ反応は39件であった。シンボルマークは【意欲的で自立度高い】【適切な支援者の存在】【日本語による意思疎通と良好な関係】【職場の活性化に良い刺激】の4つに分類できた。【意欲的で自立度高い】は29件で、表札は『仕事へも学習へも意欲的に取り組んでいる』26件、『自分に合った生活の仕方を身につけている』3件。【適切な支援者の存在】は5件で、表札は『仲間、支援者から勇気をもらう』5件【日本語による意思疎通と良好な関係】は3件で、表札は『患者の受け入れは良い反応』2件、『日本語による患者との良好なコミュニケーション』1件【職場の活性化に良い刺激】は2件で、表札は『外国人看護師候補者の取り組み姿勢が他のス



国家試験の合格率は、今なお低迷しているが、受け入れ医療施設における支援や、また、教育機関としての支援は彼らの一つのよりどころになっていた。

インタビュー調査から、国家試験に合格する以前に、日本語能力や異文化適応能力が必須であり、そのレディネスやモチベーションを整えることから出発しなければならないことがわかった。しかし、この背景には、外国人看護師候補者のレディネス、モチベーションに関する要件について、送る側、受け入れ側での認識に違い(差)があることも念頭に置かなければならない。外国人看護師候補者は「国家試験は大きな壁であり、ストレス」と言っており、支援看護師は「看護に対する基礎知識不足」「学習意欲の低下」を指摘している。送る側、受け入れ側の外国人看護師候補者のレディネス状況の要件を共通した認識で一致させることも重要である。看護管理者は、来日の受け入れ要件として、外国人看護師候補者の質のレベルアップを求めている。

仕事と学業を両立させながら、異国で生活することは、たやすくはない。看護助手業務をしながら、特別に研修時間が与えられ、専属の教師もいる。外国人を特別視すれば職場のスタッフの不満も噴出する。そうしたバランスをとっているのが看護管理者である。また、受け入れ施設の看護管理者としては、外国人看護師候補者が、日本の看護師国家試験に合格し、自施設で就労し、また日本の看護師として定着してくれることを願っている。しかし、合格後の実践能力については不安もあり、配置や継続教育の課題をもっている。

外国人看護師候補者の看護資格取得・教育に関わる大学の教育支援システム構築に向けては、国家試験合格だけでなく、異文化を共有できる関係を基礎におき進めていく必要がある。東南アジアの看護の質向上に寄与できる、国と国、地域、教育機関との連携を維持しながら、この支援制度のあり方を模索し続ける一助となればと考えている。

今後は、国家試験合格後の外国人看護師の定着度と継続教育に焦点を当て、研究を進めていきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計6件)

中村悦子、看護師の外国人看護師との協働意識に影響する異文化受容態度との関連、第17回日本看護管理学会、2013年8月25日、東京ビックサイト

中村悦子、小島さやか、Attitude structure of Japanese Nurses in accepting different culture、22<sup>nd</sup> World Congress on Psychosomatic Medicine、2013年9月14日、マリオットリスポン

ホテル

中村悦子、外国人看護師受け入れ施設の支援と課題 看護師の受け止めをKHコーダーで分析して、第51回日本医療・病院管理学会、2013年9月27日、京都大学

小島さやか、中村悦子、看護師の異文化受容態度、年代別比較、新潟青陵学会第6回学術集会、2013年11月10日、新潟青陵大学

中村悦子、小島さやか、外国人看護師候補者受け入れ施設の看護師の異文化受容態度 受け入れていない施設との比較から、第33回日本看護科学学会、2013年12月7日、大阪国際会議場

中村悦子、八尋道子、服部満生子、外国人看護師候補者受け入れ支援をめぐる、これからの課題、第33回日本看護科学学会、2013年12月6日、大阪国際会議場

[その他](計1件)

ホームページ等

「外国人看護師教育支援に関する研究」、<http://www.n-seiryu.ac.jp/laboratory/nakamura/index>.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中村悦子 (Nakamura Etsuko)

新潟青陵大学・看護福祉心理学部看護学科・教授

研究者番号：60367422

### (2) 研究分担者

鈴木宏 (Suzuki Hiroshi)

新潟青陵大学・看護福祉心理学部看護学科・教授

研究者番号：20091704

### (3) 連携研究者

尾崎フサ子 (Ozaki Fusako)

佐久大学・看護学部・教授

研究者番号：10211137

### (4) 連携研究者

南雲秀雄 (Nagumo Hideo)

新潟青陵大学・看護福祉心理学部福祉心理学部・教授

研究者番号：90300087

### (5) 連携研究者

八尋道子 (Yahiro Mitiko)

佐久大学・看護学部・助教

研究者番号：10326100

### (6) 連携研究者

丹野かほる (Tanno Kahoru)

新潟大学・医学部保健学科・教授

研究者番号：5034317

### (7) 連携研究者

佐藤みつ子 (Satou Mitsuko)

了徳寺大学・看護学科・教授

研究者番号：40187240